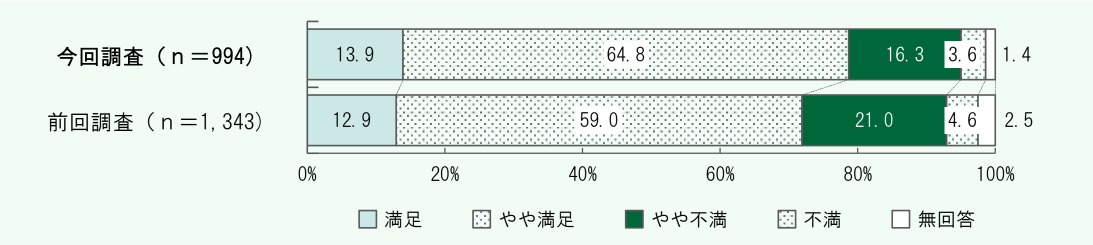
令和７年度（2025 年度）磐田市市民意識調査【結果概要】

１．磐田市の取組みについて

●市政全般の満足度（問１）

市政全般について、『満足』（「満足」＋「やや満足」）している人は約８割



前回調査と比べ、『満足』が増加している。

●総合計画の基本施策の取組みの満足度※（問５）

※４に近いほど満足度が高く、１に近いほど満足度が低いことを示している。

満足度指数が高い基本施策は

・「８　スポーツの振興」　・「26　水道水の安定供給と下水道の整備」　・「21　消防・救急体制の充実」

■満足度順位表（抜粋）

順位	基本施策	満足度指数	順位	基本施策	満足度指数
1	８　スポーツの振興	3. 03	27	30　持続可能な財政基盤の確立	2. 69
2	26　水道水の安定供給と下水道の整備	3. 00	28	３　産業を担う人材の育成・就労の支援	2. 67
3	21　消防・救急体制の充実	2. 99	29	６　移住・定住の推進	2. 65
4	18　健康づくりの推進	2. 92	30	23　計画的な土地利用の推進	2. 54
5	22　市民生活の安全・安心の確保	2. 91	31	24　公共交通体系と道路網の整備	2. 41

●総合計画の基本施策の取組みの重要度※（問５）

※４に近いほど重要度が高く、１に近いほど重要度が低いことを示している。

重要度指数が高い基本施策は

・「20　危機管理・防災対策の推進」　・「19　地域医療体制の充実」　・「26　水道水の安定供給と下水道の整備」

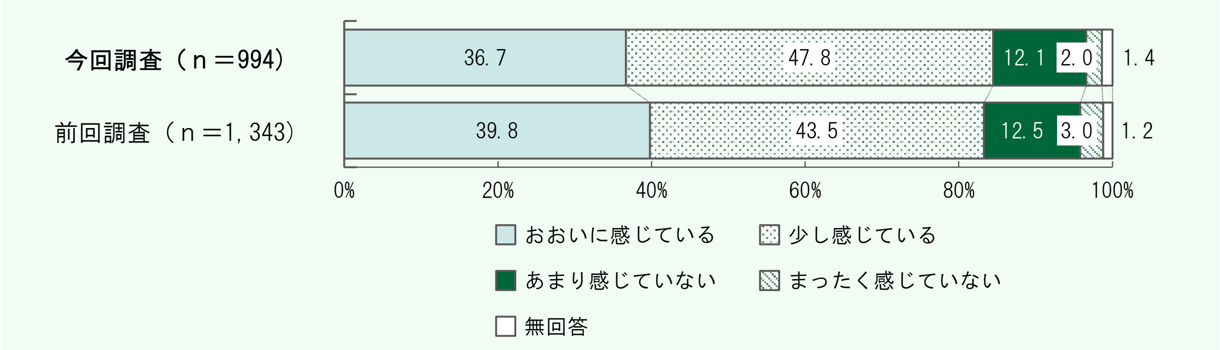
■重要度順位表（抜粋）

順位	基本施策	重要度指数	順位	基本施策	重要度指数
1	20　危機管理・防災対策の推進	3. 70	27	７　コミュニティと市民活動の活性化	3. 12
2	19　地域医療体制の充実	3. 68	28	８　スポーツの振興	3. 08
3	26　水道水の安定供給と下水道の整備	3. 66	29	５　ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	3. 05
4	21　消防・救急体制の充実	3. 65	30	11　共生社会の確立	3. 05
5	22　市民生活の安全・安心の確保	3. 59	31	９　文化の振興と歴史遺産の整備、活用	2. 98

２．まちへの想いについて

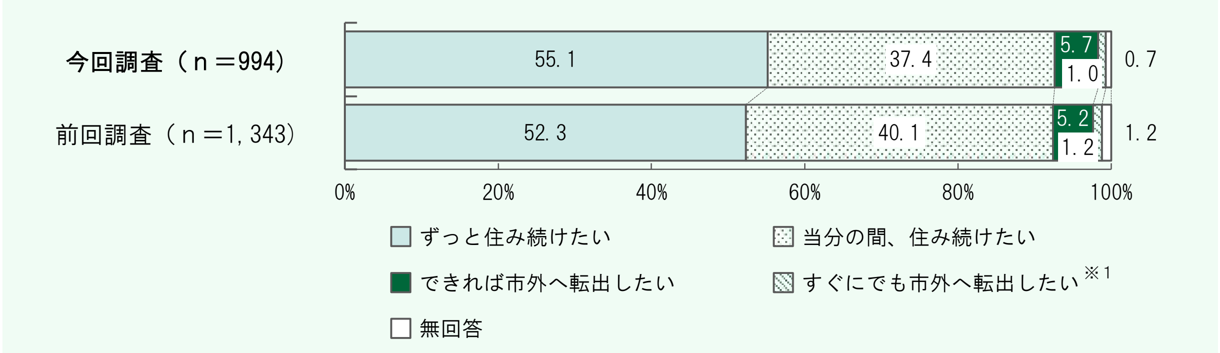
●磐田市への愛着や親しみ（問８）

磐田市に愛着や親しみを『感じている』（「おおいに感じている」＋「少し感じている」）人は８割以上



●磐田市での居住継続意向（問 10）

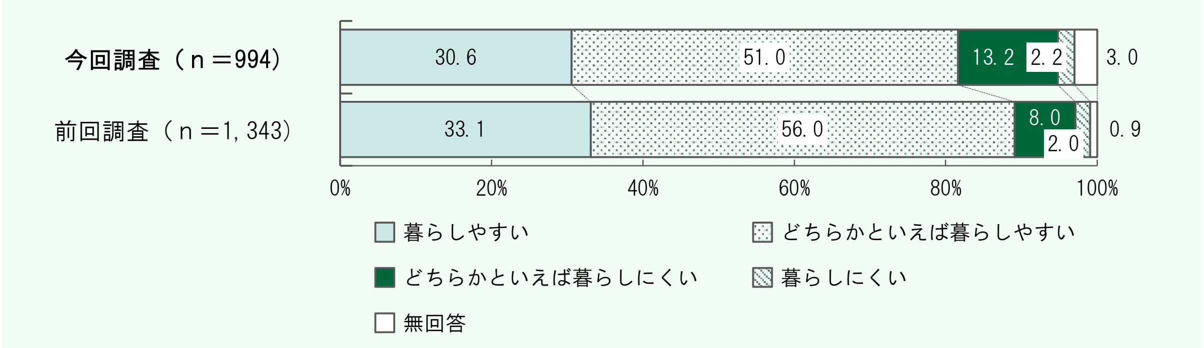
磐田市に『住み続けたい』（「ずっと住み続けたい」＋「当分の間、住み続けたい」）人は９割以上



※１：前回調査は「市外へ転出したい」であった

●磐田市の暮らしやすさ（問 11）

磐田市が『暮らしやすい』（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）と思う人は８割以上

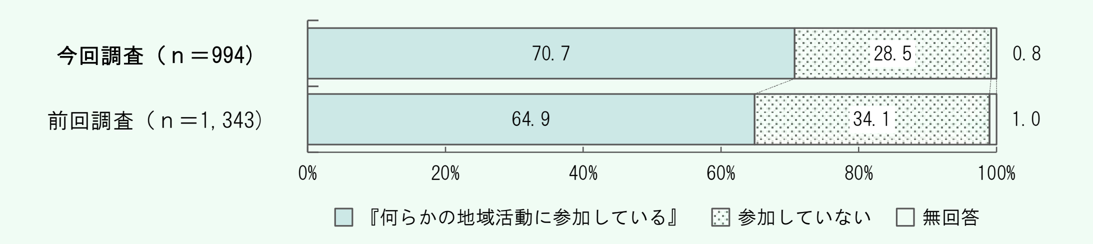


前回調査と比べ、『暮らしにくい』（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が増加している。

３．コミュニティについて

●参加している地域活動（問 14）

『何らかの地域活動に参加している』（「参加していない」「無回答」を除く）人は７割以上



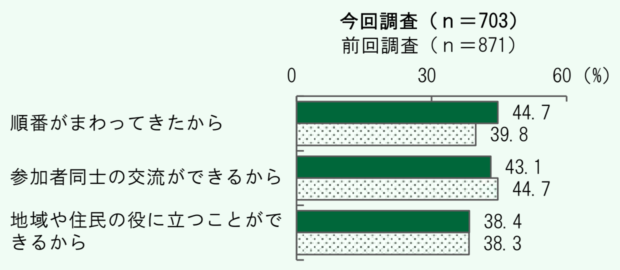
前回調査と比べ、『何らかの地域活動に参加している』が増加している。

●地域活動に参加する理由（問 15）

地域活動に参加する理由は
・「順番がまわってきたから」
・「参加者同士の交流ができるから」
・「地域や住民の役に立つことができるから」

前回調査と比べ、「順番がまわってきたから」が増加している。

■上位３項目の抜粋



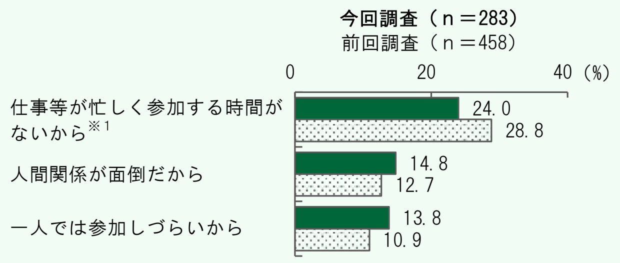
●地域活動に参加していない主な理由（問 16）

地域活動に参加していない主な理由として最も多いものは「仕事等が忙しく参加する時間がないから」

前回調査と比べ、「活動の必要性を感じていないから」が増加している。

※１：前回調査は「仕事をしているため参加する時間がないから」であった

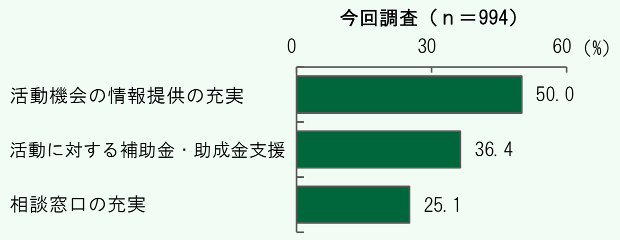
■上位３項目の抜粋



●地域活動をより活発にするための支援策として、特に優先すべきもの（問 17）

地域活動をより活発にするための支援策として、特に優先すべきものは
・「活動機会の情報提供の充実」
・「活動に対する補助金・助成金支援」
・「相談窓口の充実」

■上位３項目の抜粋

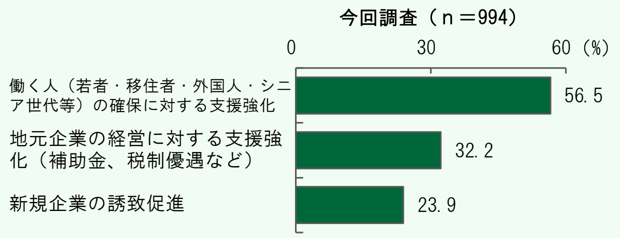


４．産業（商業・工業・農林水産業）について

●今後、市内の産業をさらに活性化するために、特に優先すべきもの（問 18）

今後、市内の産業をさらに活性化するために、特に優先すべきものは
・「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」
・「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」
・「新規企業の誘致促進」

■上位３項目の抜粋

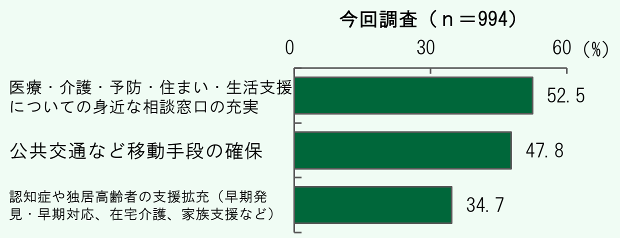


５．福祉について

●誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に優先すべきもの（問 19）

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に優先すべきものは
・「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」
・「公共交通など移動手段の確保」
・「認知症や独居高齢者の支援拡充　（早期発見・早期対応、在宅介護、家族支援など）」

■上位３項目の抜粋

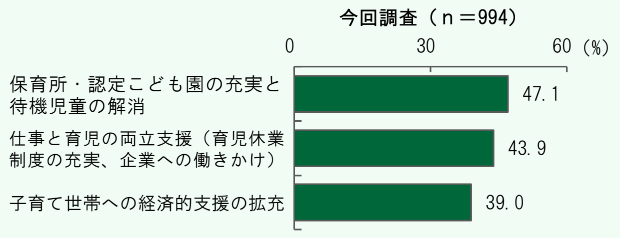


６．子育て・教育について

●安心して子どもを産み育てるために、特に優先すべきもの（問 20）

安心して子どもを産み育てるために、特に優先すべきものは
・「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」
・「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」
・「子育て世帯への経済的支援の拡充」

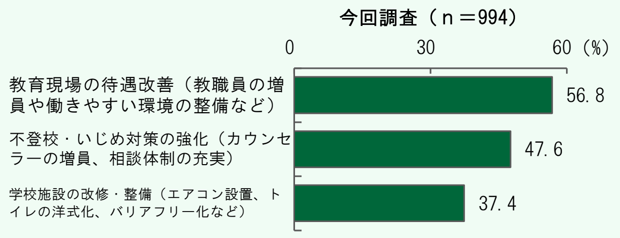
■上位３項目の抜粋



●子どもたちに対する教育を充実させるために、特に優先すべきもの（問 21）

子どもたちに対する教育を充実させるために、特に優先すべきものは
・「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」
・「不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実」
・「学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）」

■上位３項目の抜粋



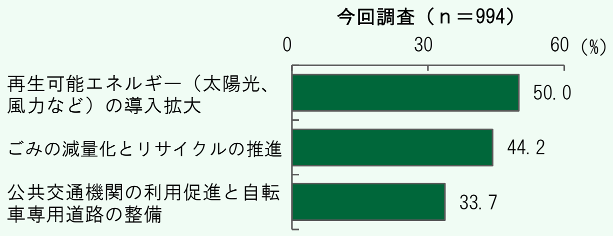
7．環境について

●カーボンニュートラルの取組みを推進するために、特に優先すべきもの（問 23）

カーボンニュートラルの取組みを推進するために、特に優先すべきものは

・「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」
・「ごみの減量化とリサイクルの推進」
・「公共交通機関の利用促進と自転車専用道路の整備」

■上位３項目の抜粋



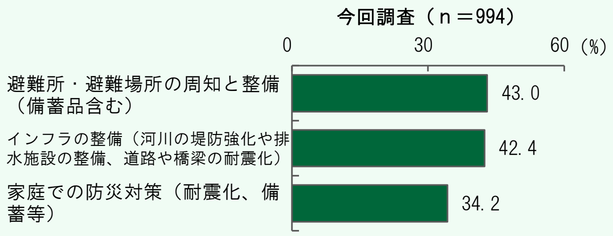
8．防災について

●磐田市の総合的な防災対策として、特に優先すべきもの（問 24）

磐田市の総合的な防災対策として、特に優先すべきものは

・「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」
・「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」
・「家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）」

■上位３項目の抜粋



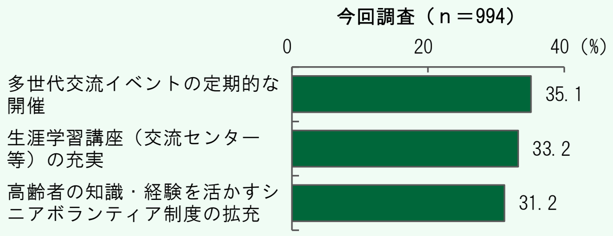
9．学びについて

●すべての世代が生涯豊かに暮らせるよう、学びを楽しみ、人と人との対話を通じた交流が生まれるまちを目指し、今後さらに進めなければならないこと（問 25）

すべての世代が生涯豊かに暮らせるよう、学びを楽しみ、人と人との対話を通じた交流が生まれるまちを目指し、今後さらに進めなければならないことは

・「多世代交流イベントの定期的な開催」
・「生涯学習講座（交流センター等）の充実」
・「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」

■上位３項目の抜粋



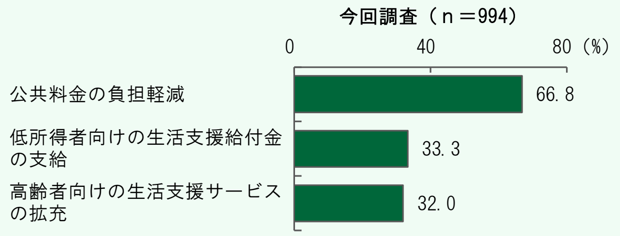
10．物価高騰に対する影響について

●物価高騰への対策として、特に重要だと思うこと（問 27）

物価高騰への対策として特に重要だと思うことは

・「公共料金の負担軽減」
・「低所得者向けの生活支援給付金の支給」
・「高齢者向けの生活支援サービスの拡充」

■上位３項目の抜粋



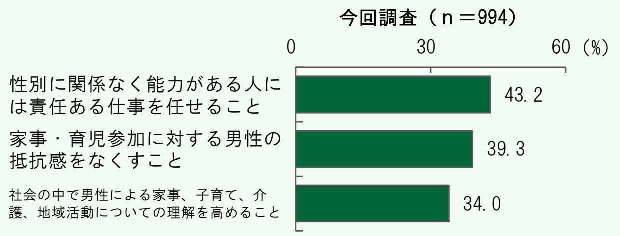
11．男女共同参画社会について

●男女ともに活躍していくために、特に必要なこと（問 30）

男女ともに活躍していくために、特に必要なことは

・「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」
・「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」
・「社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についての理解を高めること」

■上位３項目の抜粋



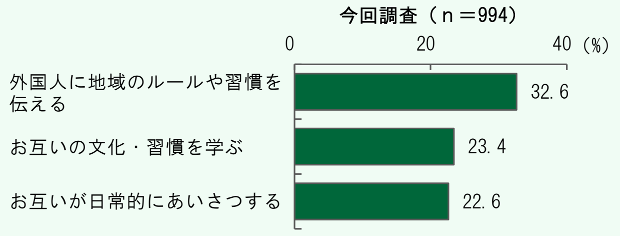
12．多文化共生社会について

●外国人と日本人が互いに尊重し、対等な立場で暮らすために最も必要なこと（問 32）

外国人と日本人が互いに尊重し、対等な立場で暮らすために最も必要なことは

「外国人に地域のルールや習慣を伝える」

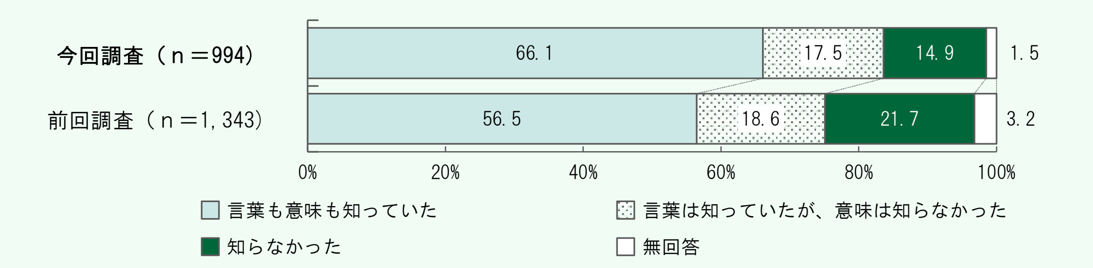
■上位３項目の抜粋



13. セクシュアルマイノリティ（性的少数者）について

●セクシュアルマイノリティ（性的少数者）の認知度（問 35）

セクシュアルマイノリティという『言葉を知っていた』（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）人は８割以上

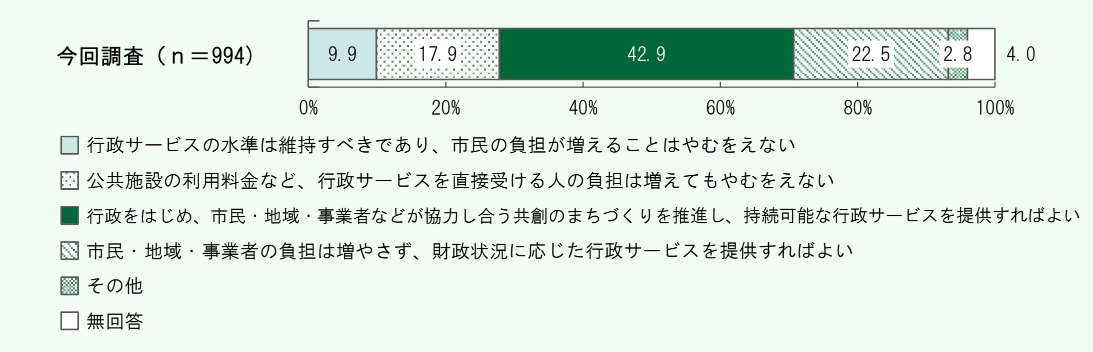


前回調査と比べ、『言葉を知っていた』が増加している

14. 行政運営について

●これからの行政サービスの水準と市民の負担のあり方についての考え（問 37）

これからの行政サービスの水準と市民の負担のあり方について、最も多い項目は
「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」

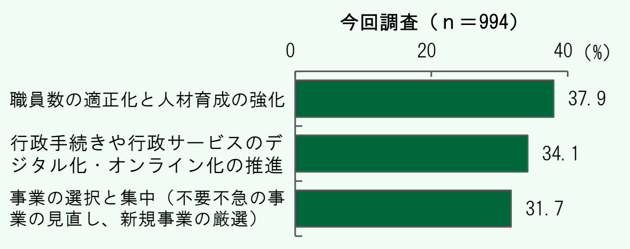


●磐田市の効率的な行政運営のために、今後さらに進めなければならないこと（問 38）

磐田市の効率的な行政運営のために、今後さらに進めなければならないことは

- 「職員数の適正化と人材育成の強化」
- 「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」
- 「事業の選択と集中（不要不急の事業の見直し、新規事業の厳選）」

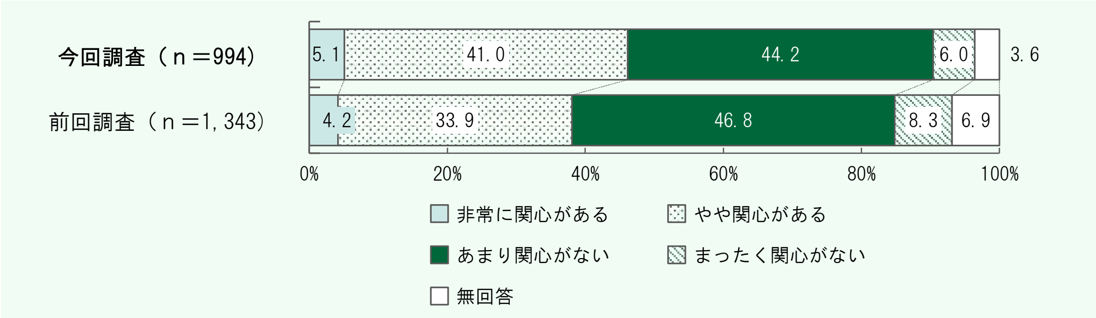
■上位３項目の抜粋



15. 市政への市民参画について

●市政参画の関心度（問 40）

市政への参画に『関心がある』（「非常に関心がある」＋「やや関心がある」）人は約５割



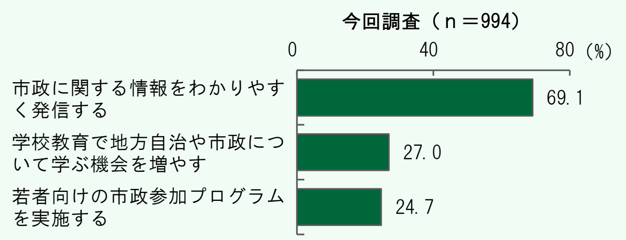
前回調査と比べ、『関心がある』が増加している

●市民の市政参画を促すために、特に必要なこと（問 41）

市民の市政参画を促すために、特に必要なことは

- 「市政に関する情報をわかりやすく発信する」
- 「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」
- 「若者向けの市政参加プログラムを実施する」

■上位３項目の抜粋



【調査の概要】

１．調査の内容

◎回答者の基本属性
◎磐田市のまちづくりについて

２．調査方法

対 象 者：市内に在住の満 18 歳以上の市民
標 本 数：3, 000 人（無作為抽出）
調査方法：郵送配布－郵送回答又はインターネット回答
調査期間：令和７年６月 18 日～７月９日

３．回収結果

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
3, 000 件	997 件	994 件 （郵送回答：736 件、インターネット回答：258 件）	33. 1%

令和７年度（2025 年度）磐田市市民意識調査【結果概要】 令和７年 11 月

磐田市 企画部 政策推進課 総合戦略グループ
〒438-8650 磐田市国府台３番地１
TEL 0538-37-4805 / FAX 0538-36-8954